書式 A（WORD）

【提出期限：2023 年 6 月 30 日】

提出日：2023 年 6 月 30 日

提出者：国際言語文化研究所長・滝沢 直宏

2022 年度　研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所

Ⅰ．研究成果の概要（公開項目）　※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2022 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。なお、2022 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究助成プログラム、研究所企画講演会・シンポジウムに、多くの若手研究者を巻き込みながら年度を通して遂行し、研究成果を学術論文・書籍や研究所紀要として発信してきた。

当研究所では、2016 年度から 2021 年度まで、5つの研究所重点プログラムが同時並行で進行してきたが、2022 年度より、2 つの研究所重点プログラムへの統合を果たした。2022 年度、参画した研究者は、学内外の研究者 138 名であったが、そのうち学内の若手研究者は、38 名であった。研究成果は、著書 36 点、論文 73 点、研究発表等 60 点と多彩な分野で多くの業績をあげることができた。加えて、土曜講座や連続講座の担当や新聞などのメディアでの発表などの活動も行い、研究成果の社会への還元にも努めた。

当研究所の紀要は、2022 年度、『立命館言語文化研究』(34 巻)を 3 号刊行した。研究所の各重点プログラムや萌芽研究の成果報告論文に加え、厳格な審査に通った個別論文が発表された。

当研究所が主催する連続講座としては、「2022 年度 国際言語文化研究所連続講座　人間と人間でないものの相互作用」を開催した(2022 年 10 月)。オンライン配信したことで毎回 90 名ほどの参加者があり、学内外の研究ネットワークの構築、研究成果の社会還元などにも寄与した。また、2021 年度の企画「“病”との接触―災厄を記憶する」の成果は、『立命館言語文化研究』34 巻 1 号(2022 年 7 月)に掲載され、2022 年度の講座についても 2023 年度に公刊される予定である。

例年通り、若手研究者の育成にも努めてきた。研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的)研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意してきた。例えば、若手研究者の育成に主眼を置いたワークショップ「日本語から世界文学を考える」(2022 年 7 月)も開催した。『立命館言語文化研究』34 巻 2 号(2022 年 12 月)に論文が掲載され、博士課程後期課程の院生、初任研究員の研究成果の公刊に寄与した。また、A2 グループでは、包括的研究プロジェクト全体ではじめてリサーチ・アシスタント(RA)の雇用が実現した。風景・空間の表象と記憶や歴史のつながりの研究セクションは院生コロキウムを 2023 年 1 月に開催し、若手研究者の成果発表と合評の場を設けた。ポスト国民文学時代の文学生産についての研究セクションは、若手研究者を中心に、定期的な研究会を発足し、ポスト国民文学時代のマルチリンガル文学研究について言語横断的な研究プロジェクトを立ち上げることができた。また、例年通り、研究教育職への就職も複数実現した。

冒頭に述べた通り、2 つに絞り込まれた重点プロジェクトは 2022 年度が初年度であった。相乗効果による研究の深化が期待されたが、それが十分にできたかと言うと、やや心許ない点もある。今後研究者間の交流や成果の共有を促進し相互の研究理解を図り協働の可能性を探る手法の構築を目指していくことも、2023 年度の課題の一つとしたい。

Ⅱ．拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2023 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	滝沢直宏	言語教育情報研究科	教授
運営委員	吉田恭子	文学部	教授
	有田節子	言語教育情報研究科	教授
	安保寛尚	法学部	教授
	ウェルズ恵子	文学部	教授
	小川真和子	文学部	教授
	河原典史	文学部	教授
	岸政彦	先端総合学術研究科	教授
	KIM, Wooja	国際関係学部	准教授
	坂下史子	文学部	教授
	住田翔子	産業社会学部	准教授
	田浦秀幸	言語教育情報研究科	教授
	高橋秀寿	文学部	教授
	内藤由直	文学部	教授
	中村仁美	文学部	准教授
	西岡亜紀	文学部	教授
	三須祐介	文学部	教授
学内教員 （専任教員、研究系教員等）	鵜野祐介	文学部	教授
	岡本広毅	文学部	准教授
	園田節子	国際関係学部	教授
	西成彦	先端総合学術研究科	特任教授
	岡田桂	産業社会学部	教授
	片桐葵	言語教育センター	外国語嘱託講師
	加藤政洋	文学部	教授
	川端美季	生存学研究所	特別招聘准教授
	坂本利子	産業社会学部	特任教授
	竹中悠美	先端総合学術研究科	教授
	鳥山純子	国際関係学部	准教授
	中本真生子	国際関係学部	准教授
	二宮周平	法学部	特任教授
	松本克美	法務研究科	特任教授
	柳原恵	産業社会学部	准教授
	RAJKAI, Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
学内の若手研 ① 専門研究員 研究員 初任研究員	栗山雄佑	文学研究科	初任研究員
	中井祐希	文学研究科	初任研究員

② リサーチアシスタント	ASAD, Marina	文学部	博士課程後期課程
③ 大学院生	木下さき	文学研究科	博士課程前期課程
	野村緒美	文学研究科	博士課程前期課程
	鷲尾渉	文学研究科	博士課程前期課程
	猪熊慶祐	文学研究科	博士課程後期課程
	今里基	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	KAHRIMAN, Sami Can	文学研究科	博士課程後期課程
	XIAO, Chenyan	文学研究科	博士課程後期課程
	那須野絢子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	古谷やす子	文学研究科	博士課程後期課程
	三木菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
	宮田絵里	文学研究科	博士課程後期課程
	森祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
	山﨑遼	文学研究科	博士課程後期課程
	LU, Jingyang	文学研究科	博士課程後期課程
	杉本はなな	文学部	博士課程前期課程
	高畑和輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	ZHANG, Jie	言語教育情報研究科	博士課程前期課程
	中川陽平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	HUANG, Qinang	言語教育情報研究科	博士課程前期課程
	深石葉子	言語教育情報研究科	博士課程前期課程
	山本晃子	言語教育情報研究科	博士課程前期課程
	OUYANG, Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	KIM, Seungyeon	文学研究科	博士課程後期課程
	ZHAO, Wuyang	文学研究科	博士課程後期課程
	ZHANG, Xian	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	橋本真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	福田浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	藤本流位	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	ROH, Hwi Jeung	文学研究科	博士課程後期課程
④ 日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）	桐原翠	立命館大学	特別研究員(PD)
	阪本佳郎	立命館大学	特別研究員(PD)
その他の学内者（補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等）	岩本知恵	文学部	授業担当講師
	岡本小百合	文学部他	授業担当講師
	木下昭	国際関係学部	授業担当講師
	佐藤量	先端総合学術研究科	授業担当講師
	志賀恭子	国際関係学部	授業担当講師
	中川成美	文学研究科	授業担当講師
	柱本元彦	文学部	授業担当講師
	BOVA, Elio	文学部	授業担当講師

	武田悠希	文学部	授業担当講師
	松本理美	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	秋山かおり	国際言語文化研究所	客員研究員
	海寶康臣	九州歯科大学	講師
	加藤昌弘	名城大学	准教授
	田中壮泰	国際言語文化研究所	客員研究員
	玉野井麻利子	UCLA	名誉教授
	鳥木圭太	国際言語文化研究所	客員研究員
	西山淳子	和歌山大学	准教授
	宮下和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師
	磯部直希	多摩美術大学	非常勤講師
	CARMONA, Antonio		劇作家
	土肥秀行	東京大学	准教授
	仲間絢	京都大学白眉センター	特定准教授
	仲間裕子	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
	FARNE, Federico	ボローニャ大学	非常勤講師
その他の学外者	池内靖子	立命館大学	名誉教授
	泉谷瞬	近畿大学	講師
	岩川ありさ	早稲田大学文学学術院	准教授
	上野千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）	名誉教授 理事長
	江南亜美子	京都芸術大学	専任講師
	WANG, Yang		独立研究者
	大谷通高	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	研究推進員
	岡野八代	同志社大学	教授
	河田学	京都芸術大学	教授
	木村朗子	津田塾大学	教授
	CHLOE, Bellec	東北大学	言語文化教育センター講師
	澤西祐典	龍谷大学	講師
	ZHUANG, Jiechun	恵州学院（中国）	専任教員
	SEO, Mincheol	京都大学大学院文学研究科	博士課程後期課程
	TSE, Dorothy	香港浸會大學	准教授
	徳永和博	三重大学	講師
	中村雪子	横浜国立大学	学振特別研究員(PD)
	西井麻里奈	大阪大学	助教

	西脇幸太	愛知文教大学	講師
	PATERSON, Rebecca	京都大学大学院教育学研究科	博士課程後期課程
	FASSBENDER, Isabel	同志社女子大学	助教
	藤井光	東京大学	准教授
	松田佑治	名古屋学院大学	講師
	三木順子	神戸女学院大学	教授
	山口真紀	神戸学院大学	特任講師
	山本真紗子	京都市立芸術大学	学振特別研究員（RPD）
	YANG, Insil	岩手大学	准教授
	LIONG, Mario	国立台北大学	准教授
	久野量一	東京外国語大学	教授
	原佑介	金沢大学	准教授
	坂口満宏	京都女子大学	教授
	佐藤麻衣	昭和女子大学	博士課程後期課程
	中村隆之	早稲田大学	教授
	野村真理	金沢大学	名誉教授
	湊圭史	松山大学	教授
	吉村季利子	京都大学大学院	博士課程後期課程
	森田健乃介	京都大学大学院	博士課程前期課程
	大久保遥	京都大学大学院	博士課程後期課程
	齋藤あおい	一橋大学	博士課程後期課程
研究所・センター構成員　　計 130 名　（うち学内の若手研究者　計 34 名）			

Ⅲ. 研究業績（公開項目）　※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ．拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023 年 3 月 31 日時点)

また、書式Ｂの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

１．著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	西成彦	死者は生者のために――ホロコーストの考古学	単著	2022 年 12 月	みすず書房	朱雀花子	PP. 1-234
2	中村隆之	第二世界のカルトグラフィ	単著	2022 年 8 月	共和国		PP. 1-224.
3	中村隆之	環大西洋政治詩学：二〇世紀ブラックカルチャーの水脈	単著	2022 年 12 月	人文書院		PP. 1-490
4	栗山雄佑	〈怒り〉の文学化――近現代日本文学から〈沖縄〉を考える	単著	2023 年 3 月	春風社		PP. 1-444
5	하라 유스케（原佑介）	금지된 향수: 고바야시 마사루의 전후문학과 조선（禁じられた郷愁：小林勝の戦後文学と朝鮮）	単著	2022 年 7 月	어문학사（語文学社）		pp. 1-400
6	土肥秀行	イタリアの文化と日本: 日本におけるイタリア学の歴	共編	2023 年 3 月	松籟社		PP. 1-344

		史					
7	ウェルズ恵子	多文化理解のための国際英語文化入門	共著	2022 年 12 月	丸善出版	岡本広毅、坂下史子ほか	
8	鵜野祐介	現代思想 7 月臨時増刊号「遠野物語を読む」	共著	2022 年 6 月	青土社/vol.50-8	赤坂憲雄・吉増剛造他	pp.51-64
9	鵜野祐介	災厄を生きる　物語と土地の力　東日本大震災からコロナ禍まで	共著	2022 年 7 月	国書刊行会	村本邦子編	pp.105-137
10	岡本広毅	多文化理解のための国際英語文化入門	共著	2022 年 12 月	丸善出版	ウェルズ恵子（編）、坂下史子ほか	PP. 14-28
11	岡本広毅	ガウェイン卿の物語—アーサー王円卓騎士の回想	単訳	2023 年 1 月	みずき書林	原作：Neil Philip イラスト：Charles Keeping	
12	坂下史子	「ヘイト」に抗するアメリカ史–マジョリティを問い直す	共著	2022 年 4 月	彩流社	兼子歩、貴堂嘉之、大森一輝、石山徳子ほか	PP. 105-124
13	坂下史子	私たちが声を上げるときアメリカを変えた 10 の問い	共著	2022 年 6 月	集英社新書	和泉真澄、土屋和代、三牧聖子、吉原真里	
14	坂下史子	自由に生きるための知性とはなにか—リベラル・アーツで未来をひらく	共著	2022 年 9 月	晶文社	熊谷晋一郎、松原洋子ほか	
15	坂下史子	アメリカ黒人女性史　再解釈のアメリカ史・1	共著(訳)	2022 年 10 月	勁草書房	原著者：ダイナ・レイミー・ベリー&カリ・ニコール・グロス	
16	坂下史子	多文化理解のための国際英語文化入門	共著	2022 年 12 月	丸善出版	ウェルズ恵子（編）、岡本広毅ほか	
17	河原典史	【報告集】ブリティッシュ・コロンビア大学 新渡戸稲造記念庭園資料集	共編	2022 年	公益財団法人村田学術振興財団研究助成		1-181 頁
18	仲間裕子	ゲルハルト・リヒター	単著	2022 年 6 月	東京国立近代美術館・豊田市美術館△△出版	桝田倫広、鈴木俊晴他 7 名	PP.108~111
19	Takenaka Yumi Kim	Capture Japan: Visual Culture and the Global Imagination from 1952 to the Present	共著	2022/12	Bloomsbury	Marco Bohr ed., Miyao Daisuke, Ramona Bajema, Man-tat Terence Leung, Martin Picard and Martin Roth, Jamie Coates, Carrie L. Cushman, Hagiwara Hiroko, Jennifer Coates, Selma A. Purac, Melissa Miles	pp.158-178
20	山本真紗子	「コラム・近代文化と「唐物」」	単著	2022 年 10 月	『「唐物」とは何か—舶載品をめぐる文化形成と交流—』（アジア遊学 275）、勉誠出版	河添房江・皆川雅樹編	pp285～290
21	金友子	『被害と加害のフェミニズム』	共訳	2023 年 1 月	解放出版社	クォンキム・ヒョンヨン編著、影本剛／ハン・ディディ監訳	167-209（第 4 章）
22	松本克美	『時効・民事法制度の新展開・松久三四彦先生古稀記念祝賀論集』、	共著	2022 年 8 月	信山社	藤原正則・池田清治・曽野裕夫・遠山純弘・林誠司編	57-75
23	松本克美	『新注釈民法（16）債権(9)』	共著	2022 年 9 月	有斐閣、	大塚直編	573-618
24	松本克美	『生と死の民法学』	共著	2022 年 11 月	成文堂	深谷格・森山浩江・金子敬明編	455-479
25	松本克美	『専門訴訟講座２・建築訴訟・第３版』、	共著	2022 年 11 月	民事法研究会	松本克美・齋藤隆・小久保孝雄編	2-46, 101-137
26	松本克美	『民法・消費者法理論の展開・藤巻則先生古稀祝賀論文集』	共著	2022 年 12 月	弘文堂	都築満雄・白石大・根本尚徳・前田太朗・山城一真編	375-394

27	梁　仁實	『朝鮮映画の時代』	単著	2022 年	法政大学出版		1-306
28	梁　仁實	『세계속의 한류［世界のなかの韓流］』	共著	2022	도서출판 역락［図書出版ヨクラク］	가천대학교 아시아문화연구소［カチョン大学アジア文化研究所］編	35－75「한류와 K 사이에서-낯설지만 익숙하고 세련된 한국드라마［韓流とKの狭間で－見慣れずも身近で洗練された韓国ドラマ］」
29	栗山雄佑	『〈怒り〉の文学化　近現代日本文学から〈沖縄〉を考える』	単著	2023.3.31	春風社		
30	鳥山純子	『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ６　うつりゆく家族』	共著	2023 年 3 月 31 日	明石書店	竹村和朗編長澤栄治監修	84-101、「母という家庭の中心—あるエジプト人母の姿から」。36-39、「コラム１　妻の居ぬ間にもう一家族」
31	柳原恵	人間関係のデモクラシー——“家族”から思考する	共著	2023 年 9 月	立命館大学教養教育センター編，自由に生きるための知性とは何か	横田 祐美子	—
32	木村朗子	平安貴族サバイバル	単著	2022 年	笠間書院		1-196
33	岩川ありさ	物語とトラウマークィア・フェミニズム批評の可能性	単著	2022 年 10 月	青土社		1-480
34	吉田恭子	Right Margin: 詩の余白から生まれるもの	共著	2022 年 12 月	英詩研究会10周年記念詩文集	英詩研究会	「Translation as Magic」25-30
35	中村仁美	Right Margin: 詩の余白から生まれるもの	共著	2022 年 12 月	英詩研究会10周年記念詩文集	英詩研究会	「キャサリン・ウォルシュ『オプティック・ヴァーヴ』の話」160−168
36	吉田恭子	『かくも甘き果実』	単訳	2022 年 4 月	集英社	モニク・トゥルン著	1-320

２．論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	原佑介	日本文学にあらわれた「不逞鮮人」と朝鮮人女性——中西伊之助「不逞鮮人」と田宮虎彦「朝鮮ダリヤ」を手がかりに	単著	2022 年 6 月	国際高麗学会日本支部『コリアン・スタディーズ』10 号		PP. 40-52	有
2	原佑介	植民者二世と被植民者二世のポストコロニアルの再会——李恢成「証人のいない光景」を手がかりに	単著	2022 年 9 月	占領開拓期文化研究会『フェンスレス』6 号		PP. 77-89	無
3	久野量一	キューバの文芸誌にみる『アフリカ』——翻訳と脱植民地主義	単著	2023 年 3 月	岩波書店『思想』1187 号		PP.194-208	無
4	中村隆之	『ニグロ・ワーカー』あるいは「ブラック・ラディカルの伝統」の一起点——国際共産主義運動とパン・アフリカニズムを越境する想像力のために	単著	2023 年 3 月	岩波書店『思想』1187 号		PP.35-52	無
5	中村隆之	ネグリチュード運動の形成	単著	2023 年 2 月	『岩波講座 世界歴史 21：二つの大戦と帝国主義II 20 世紀前半』、岩波書店		263-280 頁	
6	野村真理	西ウクライナの古都リヴィウが見てきたこと	単著	2023 年 3 月	岩波書店『世界』967 号		PP.111-118	

7	田中壮泰	イディッシュ語で書かれたウクライナ文学――ドヴィド・ベルゲルソンとポグロム以後の経験	単著	2022 年 3 月	日本スラヴ学研究会『スラヴ学論集』25 号		PP.63-82	有
8	田中壮泰	どこに転がっていくの、林檎ちゃん：ロシア内戦時代の革命ソングとその文化的越境をめぐって	単著	2022 年 12 月	国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』34 巻 2 号		PP.155-163	無
9	栗山雄佑	移民経験を聞く・想起する・書く作家――大城立裕「ノロエステ鉄道」論――	単著	2022 年 12 月	国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第 34 巻第 2 号		PP. 67-81	無
10	土肥秀行	《未来派創立宣言》を読む	単著	2023 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科『文化交流研究』36 号		pp. 11-17	
11	土肥秀行	解説	単著	2023 年 1 月	アルベルト・モラヴィア『同調者』関口英子訳、光文社古典新訳文庫			
12	佐藤量	満洲における日本人住居の形成と展開	単著	2022 年 12 月	『立命館言語文化研究』、34(2)		19-36 頁	
13	河原典史	カナダ日本人移民による塩鰊のアジアへの輸出－戦間期における塩干魚類の移動－	単著	2023 年 3 月	太田 出他編著『領海・漁業・外交－19～20 世紀の海洋への新視点－』		77-105 頁	
14	河原典史	カナダ・バンクーバーにおける日本人移民の家内労働－20 世紀初頭におけるガーディナーの萌芽をめぐる考察－	単著	2022 年 12 月	国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第 34 巻第 2 号		1-17 頁	
15	河原典史	バンクーバーにおける日本人移民社会とスペイン風邪：日本語新聞『大陸日報』からの分析	単著	2022 年 7 月	国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』34 巻 1 号		31-44 頁	
16	安保寛尚	ヴァナキュラー研究とは何か	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 33-41	無
17	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文学、歌と物語	単著	2022 年 12 月	『多文化理解のための国際英語文化入門』、丸善出版		PP. 29-44	無
18	ウェルズ恵子	シャボン玉の中へ庭は入れません ―― 詩と歌と物語の研究を支えてきたもの(定年退職記念講義録)	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 21-31	無
19	鵜野祐介	日本のシンデレラ物語における＜あわい＞のイメージ	単著	2022 年 5 月	うたとかたりの研究会/論叢うたとかたり/4		pp.3-10	無
20	鵜野祐介	《安珍清姫の唄》を歌い継ぐ少女たち	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		pp.223-237	無
21	岡本広毅	「英語のルーツとファンタジー文化」	単著	2022 年 12 月	『多文化理解のための国際英語文化入門』、丸善出版		PP. 14-28	無
22	岡本広毅	「中世ブリテン建国史と巨人族討伐―『ブルート』年代記とロマンスにおける歴史的記憶―」	単著	2023 年 3 月	『「巨人」の場(トポス)―古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』 勝又悦子編 (同志社大学一神教学際研究センター)		PP. 139-164	有
23	岡本広毅	"Sir Gawain and the Green Knight in Malory's Template: "Finding Time for Romance" in Modern Arthuriana"	単著	2023 年 3 月	POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies (97&98), Maruzen-Yushodo Co., Ltd.		PP. 55-72	有
24	岡本広毅	「〈ガウェイン・カントリー〉の継承と発展―『忘れられた巨人』への着想源―」	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 165-181	無
25	坂下史子	【書評】岩本裕子・西﨑緑編著『自由と解放を求める人びと　アメリカ黒人の闘争	単著	2023 年 3 月	『黒人研究』93、黒人研究学会		PP. 104-106	無

		と多面的な連携の歴史』						
26	坂下史子	With Pens, Signs, and Buttons: The Politics of Black Women's Anti-Lynching Activism in the 1930s-40s	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 307-324	無
27	海寳康臣	談話の冒頭に生起する左方転位構文―主語名詞句が転位化されている場合―	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		pp.77-89	無
28	加藤昌弘	「ヴァナキュラー文化としてのポッドキャスト：スコットランド独立運動における「新しい聴く文化」」	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 103-112	有
29	西山淳子	話し言葉における英語の now と日本語の「いま」	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		pp.141-150	無
30	猪熊慶祐	禁酒のニューヨーク ――クリスティズ・ミンストレルズの笑劇における風刺の変遷――	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		pp.66-76	無
31	古谷やす子	私が Zora Neale Hurston から学んだこと	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		pp.53-64	無
32	山﨑遼	The Examination of Autoethnography as the Initial Step towards More Objective, Comprehensive, and Fairer Anthropology and Folkloristics	単著	2023 年 3 月	立命館大学人文学会、立命館文学、683		PP. 341-356	無
33	有田節子	日本語母語話者によるスペイン語 si 条件文の使用と文脈依存性〇〇に関する研究	単著	2013年1月	論究日本文学, 117 号		PP. 25～37	無
34	滝沢直宏	周辺部の語法文法に見る原理－age の用法、下位を表す最上級形および同格名詞節を導く that の省略－	単著	2023年3月	立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究, 34 巻 3 号		PP. 1～14	無
35	新實葉子	文副詞 basically の通時的変遷についての一考察	単著	2023年3月	立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究, 34 巻 3 号		PP. 15～25	無
36	西脇幸太	Lemma 化の危険性：one's を例に	単著	2023年3月	立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究, 34 巻 3 号		PP. 27～38	無
37	仲間裕子	ゲルハルト・リヒターと「炎の氷」	単著	2022年6月	コメット通信 23 号		PP.9~10.	無
38	高橋秀寿	反ユダヤ主義とは何か？―ドイツにおけるユダヤ人表象をめぐって	単著	2022 年 12 月	立命館言語文化研究		PP.195 - 224	無
39	竹中悠美	日本通俗艺术中自然现象与自然灾害的交界地带：以浮世绘和纪实摄影集为例	単著	2022年8月	『东方丛刊』78	張憲訳	pp.121-140	無
40	竹中悠美	FSA 写真アーカイブの政治性とその美学	単著	2022年6月	『日本写真芸術学会誌』31 巻、1 号		pp.26-31	無
41	三木順子	ルートヴィヒ美術館展展評「美術の公共性―その見えざる『かたち』を想う」	単著	2023年3月	国立京都近代美術館『視る』524 号		P. 6～7	無
42	住田翔子	廃墟から遺産へ―閉山後の軍艦島に対するまなざしの一考察	単著	2022 年 12 月	立命館言語文化研究		PP.225 - 238	無
43	住田翔子	パルクールと創造する都市:《Jump London》(2003)の制作背景に注目して	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究所紀要		PP.81 - 105	無
44	藤本流位	差異化と均一化、そして宙吊りにされた無色透明の輝き――宮坂直樹キュレーション「物質分化」展について	単著	2022年8月	ART RESEARCH ONLINE			無
45	藤本流位	インタープレイから生まれるもの ―「写真は変成する	単著	2022年3月	瓜生通信			無

		3 INTERPLAY on POST/PHOTOGRAPHY」京都芸術大学/大学院（写真・映像）＋東京工芸大学 共同選抜展						
46	金友子	比較から近接地帯へ――専有された労働と非／人間動物の逃亡	単訳	2022 年 6 月	動物のまなざしのもとで――種と文化の境界を問い直す(勁草書房)	申知暎の原著論文の日本語訳 鵜飼哲編著	145-178	無
47	松本克美	「進行性の B 型肝炎の再発と民法 724 条の 20 年期間の起算点」	単著	2022年4月	日本評論社、新・判例解説 Watch、30 号		59-62	査 読 無（招待）
48	松本克美	「所有者不明土地・建物の物理的管理不全から生じる他人の権利侵害等の予防と被害救済の課題―空家対策特別措置法の施行、民法等の一部改正法・相続土地国庫帰属法の制定をふまえて―」	単著	2022年6月	立命館大学法学会、立命館法学、401 号		300-323	査読無
49	松本克美	「不法行為による損害賠償債務の遅延損害金の起算日と 20 年期間の起算点」	単著	2022 年 12 月	立命館大学法学会、立命館法学、403 号		1549−1571	査読無
50	森祐香里	世界文学から考える野間宏初期作品における〈肉体〉：野間宏「肉体は濡れて」「地獄篇第二十八歌」	単著	2022 年 12 月	立命館大学国際言語文化研究所，立命館言語文化研究，34 巻 2 号		37-29	無
51	金昇渊	「越境（者）」の対象化に潜む包摂――多和田葉子「ゴットハルト鉄道」――	単著	2022 年 12 月	立命館大学国際言語文化研究所，立命館言語文化研究，34 巻 2 号		83-96	無
52	金昇渊	〈二人称〉の身体が紡ぐ「容疑者」という情動――多和田葉子『容疑者の夜行列車』論――	単著	2022 年 12 月	立命館大学日本文学会，論究日本文學，117 号		53-67	有
53	栗山雄佑	癒し得ぬ傷の解消の術を求めて――崎山麻夫「ダバオ巡礼」論――	単著	2022.7.30	立命館大学国際言語文化研究所　立命館言語文化研究　34 巻 1 号		1-15	無
54	栗山雄佑	移民経験を聞く・想起する・書く作家――大城立裕「ノロエステ鉄道」論――	単著	2022.12.25	立命館大学国際言語文化研究所　立命館言語文化研究　34 巻 2 号		67-81	無
55	堀江有里	結婚への自由／結婚からの自由 ――婚姻制度をめぐる批判の再読	単著	2022 年 12 月	立社会理論・動態研究所，理論と動態，第 15 号		29-48	有
56	堀江有里	日本の〈宗教右派〉の協働――バックラッシュを読む	単著	2023年3月	花園大学人権教育研究センター，人権教育研究，第 31 号		53-80	無
57	Junko TORIYAMA	“ BOOK REVIEW : Exploring Queer Studies 1: Identity, Community, and Space KIKUCHI Natsuno, HORIE Yuri, IINO Yuriko (eds.), Kyoto: Koyo Shobo, 2019*”	単著	2022 年 11 月	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University (4) Nov. 2022:		206-208	無
58	柳原恵	東北のおなごたちが読んだ森崎和江	単著	2022 年 11 月	現代思想 50(13)	—	309-323	無
59	柳原恵	書評：郡山吉江著『しかし語らねばならない』(共和国、2022 年)	単著	2022 年 11 月	週刊読書人(3464)	—	—	無
60	柳原恵	書評 折井美耶子著『地域女性史への道：祖母たち・母たちの物語を紡ぐ』	単著	2023 年 3 月	歴史評論 (875)	—	100-104	無
61	柳原恵	「この地」から見る戦争の足跡	単著	2022 年	地域女性史研究（3）	—	-	無
62	Rajkai, Zsombor	"Paradigms in Family Research: Diversity and	単著	2022	Sosyoloji Dergisi 43		193-219	

		Reflexivity"						
63	ライカイ・ジョンボル	「非西洋文化圏における家族研究 —東アジア、東ヨーロッパとトルコを事例に」	単著	2023 年 3 月）	平井晶子他編著『〈わたし〉から始まる社会学: 家族とジェンダーから歴史、そして世界へ』		260-277	無
64	川端美季	「情報アクセシビリティとセーファースペース」	単著	2022 年	立命館大学生存学研究所、『立命館生存学研究』、第 7 号		61-72	無
65	川端美季	「まちをきれいにする・ひとをきれいにする」	単著	2022 年	日本建築学会、建築討論、202207		ウェブ雑誌のためページ記載なし	無
66	川端美季	「シンポジウムのまとめ−Summary of the Symposium−シンポジウム AID(DI)の倫理: 出自を知る権利をめぐるこれまでの議論の経緯と今後の課題」	共著	2022 年	日本医学哲学・倫理学会、医学哲学医学倫理、40 号、		53-55	無
67	岩川ありさ	「養生する言葉」	単著	2023年3月	『群像』 78 (3)		312-321	無
68	岩川ありさ	「生きのびるために必要な場所 ： 川口晴美「閃輝暗点」」	単著	2023年3月	『 現代詩手帖 / 思潮社』 66 (3)		39-43	無
69	欧陽珊珊	「第 5 章 : 残酷児——台湾における障害のある性的少数者の実践」	単著	2023	『クィア・スタディーズをひらく 3』菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編著、晃洋書房		108-135	無
70	欧陽珊珊	「 書 評 : Sexuality, Disability, and Aging: Queer Temporalities of the Phallus」	単著	2023	『コア・エシックス』19		193-195	無
71	阪本佳郎	オウィディウスの末裔たち——ルーマニア亡命詩人の系譜と、シュテファン・バチウの『MELE 詩の国際便』	単著	2023年3月	立命館大学国際言語文化研究所，立命館言語文化研究，34 巻 3 号	なし	PP． 97～117	有
72	阪本佳郎	生きられた言語を交わす文学、シュテファン・バチウの『MELE 詩の国際便』、a worlds literature	単著	2023年1月	立命館大学国際言語文化研究所，立命館言語文化研究，34 巻 2 号	なし	PP．165～179	無
73	吉田恭子	ポスト国民時代の現代詩	単著	2023年1月	立命館大学国際言語文化研究所，立命館言語文化研究，34 巻 2 号	なし	pp. 97~103	無

３．研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	西成彦	シベリア干渉戦争と文学	2022 年 7 月	日本大学国文学会	朱雀夏子
2	Nakamura, Takayuki,	Poétiques de Glissant contre la pensée de système	le 10 août 2022	colloque international intitulé *Édouard Glissant, la relation mondiale*, Centre culturel international de Cerisy	
3	하라 유스케（原佑介）	단층과 가교: 한국전쟁과 일본 포스트식민문학의 탄생（断層と架橋：韓国戦争と日本ポスト植民文学の誕生）	2023 年 2 月	정기 학술대회: 경계로서의 한국문학・문화, 상허학회（尚虚学会）（オンライン）	
4	土肥秀行	イタリア文学における鉄道員という父性	2022 年 11 月	イタリア学会第 70 回大会（東京外国語大学）	
5	土肥秀行	イタリアは敵か味方か—第一次世界大戦期の日本におけるイタリア人捕虜	2022 年 7 月	POW 研究会講演会	

6	河原典史	植民地期の朝鮮における缶詰製造業ー竹中缶詰製造所を中心にー	2022 年	第５回東北アジア人文ネットワーク国際学術大会ー東北亜海域における人文ネットワークの変化と交渉、慶釜大学（オンライン）	
7	河原典史	サケ・クジラ・ニシンをめぐる国際・民族的分業システム―拙著『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』を執筆して―	2022 年	京都民俗学会 第 345 回談話会	
8	安保寛尚	「キューバの密林：リディア・カブレラと神話／民話、驚異的現実の交差点」	2022 年 10 月	国際言語文化研究所連続講座第３回、立命館大学衣笠キャンパス	
9	鵜野祐介	『子どもの替え唄と戦争笠木透のラスト・メッセージ』をめぐって	2022 年 4 月	日本児童文学学会関西例会第 150 回大会、大阪府立中央図書館	
10	鵜野祐介	災厄を伝えるスコットランド伝承童謡 ―「小さき人びと」の物語歌―	2022 年 10 月	日本スコットランド学会 2022 年度大会、リモート	
11	鵜野祐介	ことば遊びの不思議をさぐる ―戦争中の子どもの替え唄を中心に―	2023 年 1 月	日本子どもと伝承遊び学会第３回大会、鹿児島県民交流センター	
12	岡本広毅	英語文学のルーツとファンタジー文化：J.R.R. トールキン のモンスター擁護を巡って	2022 年 5 月	第 7 回 革新的意味創出研究会、立命館大学デザイン科学研究センター	
13	岡本広毅	「ロマンスの時を求めて」―マロリー・テンプレートにおけるガウェイン物語の受容	2022 年 6 月	日本中世英語英文学会西支部例会	
14	野村緒美	「現代に生きる 1920 年代アメリカ大衆演劇文化：系譜化の試み」	2022 年 11 月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
15	KAHRIMAN Sami Can	「ガダマーの遊び論から見た子どもの『いたずら』」	2023 年 1 月	日本子どもと伝承遊び学会　第三回大会、かごしま県民交流センター、ポスター発表（単）	
16	加藤昌弘	「スコットランド独立運動のポッドキャストを聞く：「普通の人びと」の声に耳を傾ける」	2023 年 1 月	『日本スコットランド学会第二回研究会』、オンライン（同志社大学）	
17	三須祐介	被演繹的優伶： 從性別與政治的角度分析 電影中的戲曲表達	2022 年 6 月	一葦百年國際學術研討會、國立臺北藝術大學戲劇學系（オンライン）	
18	三須祐介	台湾現代文学における「鬼」の形象 ―陳思宏『鬼地方』を手がかりに―	2022 年 10 月	国際言語文化研究所連続講座第１回、立命館大学衣笠キャンパス	
19	三須祐介	台湾における同志文学とサイノフォンの交差点	2023 年 3 月	世界文学・語圏横断ネットワーク　第 15 回研究集会（オンライン）	
20	TAURA, Hideyuki	Face-to-face, Online, or Hybrid Language Learning/Engaging in a COVID-19 Endemic World?	2023.3.13-15	he 57th RELC International Conference at SEAMEO RELC in Singapore	
21	TAURA, Hideyuki	The Effects of COVID-19 on Simultaneous Interpretation in Japan: A Neuro-Linguistic Case Study	2022.6.30-7.2	he 4th East Asian Translation Studies Conference (EATS4) (hybrid conference) at Universite Paris Cite, campus des Grands Moulins, France	
22	TAURA, Hideyuki	L2 Brain Connectome Re-structuring by Studying Abroad	2022.7.9	ACET 関東支部大会 'The Exploration of New Forms of Study Abroad' 青山学院大学青山キャンパス	
23	ARITA, Setsuko	Oraciones imperativas acompañadas de una oración condicional en japonés y español	2023 年 2 月	Simposio sobre gramática contrastiva del japonés y el español	

24	有田節子	条件表現の日西対照研究の試み–周辺的用法から–	2022 年 5 月	関西スペイン語学研究会	
25	滝沢直宏	典型から外れる語法文法－age の用法、下位を表す最上級、同格名詞節を導く that の省略などを例に－	2022 年 8 月	英語語法文法学会・第 18 回英語語法文法セミナー「英文法の周縁に光を当てる－例外から規則へ」	
26	滝沢直宏	英語学習文法研究と例文データベースの構築	2022 年 11 月	大学英語教育学会関西支部 2022 年度第 3 回支部講演会(学習英文法研究会)	
27	Yuko Nakama	Reading the images of Sesshū ' s Long Landscape Scroll from a comparative perspective	2023 年 2 月	Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University	
28	藤本流位	研究対象としての「おかんアート」―美学、社会学、人類学からの検討	2022 年 4 月 17 日	第 38 回民族藝術学会大会、国際ファッション専門職大学（オンライン）	柴田惇朗、坂本唯、竹田優哉
29	藤本流位	日本国内の芸術祭におけるサンティアゴ・シエラの作品展示について	2023 年 1 月 31 日	院生コロキウム「ポストメディア時代における東アジアの文化芸術研究―テーマとパースペクティブ―」、立命館大学衣笠キャンパス創始館 408（オンラインを含む）	
30	KIM Wooja	Experiences of the Zainichi Women: The Human Rights Situation of Ethnic KoreanResidents Living in Japan	2022 年 4 月	2022 Online Social Justice Symposium (Antioch University Seattle), Online	Lee Wolsoon, Uemura Hideaki
31	金友子	60 년대 한일협정 전후 한국국적/조선적을 둘러싼 논란과 현재	2022 年 12 月	2022 통일인문학세계포럼 “해외동포들의 관점에서 본 남북 당국의 해외동포법과 거주국에서의 법적 지위에 관한 역사와 현황, 그리고 과제” (朝鮮大学校、東京都国立市)	
32	金友子	在日コリアン 2 世の民族・学生運動の軌跡：「在日韓国学生同盟」小史	2023 年 2 月	朝鮮族研究学会・北東アジア学会（関西地域研究会）合同研究会、谷岡学園サテライト、大阪市	鄭雅英
33	松本克美	「本訴請求債権の請負代金債権を自働債権とし、反訴請求債権の瑕疵修補 に代わる損害賠償請求権を受働債権とする相殺を認めた事例―最判令和 2 年 9 月 11 日民集74巻6号1693頁の検討―」、、、	2022 年 6 月	末川民事法研究会、立命館大学中川会館、京都市	
34	梁　仁實	「朝鮮映画のなかのチョウセンらしさとは何か」	2023 年 3 月 18 日	国際高麗学会日本支部　人文社会研究部会＆科学技術研究部会　合同研究会	
35	金昇渊	「越境（者）」の対象化に潜む包摂――多和田葉子「ゴットハルト鉄道」	2022 年 7 月	「日本語から世界文学を考える」（JSPS 科研費・基盤研究(C)「世界文学と日本文学―情動理論の共有を基礎として」），立命館大学衣笠キャンパス	
36	金昇渊	第Ⅱ部　歴史と記憶	2022 年 12 月	ラウンドテーブル『世界文学としての〈震災後文学〉』×瀬尾夏美トークセッション（フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）およびフランス東アジア研究所（IFRAE）共催、JSPS 科研費・基盤研究(C)「震災後文学の研究と国際研究ネットワークの構築」および「世界文学と日本文学―情動理論の共有を基礎として」），津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス	木村朗子, クリスティーナ・岩田＝ワイケナント，新井高子
37	栗山雄佑	〈コピー〉される言説に抗うために ――星野智幸「在日ヲロシヤ人の悲劇」論	20022.5.29	2022 年度日本近代文学会春季大会 早稲田大学	
38	栗山雄佑	〈闘争〉を求められる檻の中で ――又吉栄喜「カー	2022.9.2	第 15 回 世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会　オンライン開催	

		ニバル闘牛大会」、目取真俊「軍鶏」論			
39	堀江有里	クィア神学から見る『同性愛と新約聖書』	2022 年 9 月	日本新約学会第 62 回学術大会	
40	Junko TORIYAMA	“Making Analysis”	2022. 5. 16	NIMAR Ethnographic Research Seminar. NIMAR Rabat, Morocco.	
41	Junko TORIYAMA	“People Again: Towards a benevolent discussion of knowledge-making,”	2022. 8. 30	International Workshop Taste of Knowledge #1. NIMAR Rabat, Morocco.	
42	鳥山純子	「エジプトで学ばされた生き延びるための処方法：ジェンダー、社会階級、グローバルネットワークに着目した社会考察」	2022. 9. 16	中東☆イスラーム教育セミナー、東京外国語大学 AA 研	
43	鳥山純子	知のメーキング現場としてのフィールドーフィールド経験からの語りー」	2022. 10. 9	＜イスラーム・ジェンダー科研 2022 年度全体集会＞イスラーム・ジェンダー学が目指すもの ― 公正の問題を考える、東京大学、オンライン	
44	Junko TORIYAMA	“Observing Gender in Films: Sofia”	2022. 11. 29	NIMAR Seminar: Case Studies on Moroccan Culture and Society No.9. NIMAR Rabat, Morocco.	
45	Junko TORIYAMA	“How can we discuss the taste of knowledge?”	2023.2. 14	International Workshop Taste of Knowledge #2. NIMAR Rabat, Morocco.	
46	Megumi Yanagiwara	Feminism in Northeast Japan: Focusing on the Life-Writing movement and the Self-Expression Activities of Young Rural Women.	2023 年 3 月 10 日	Missing Bodies, Missing Voices, University of Oxford	—
47	柳原恵	岩手の〈おなご〉は 森崎和江をどう読んだのか	2023 年 3 月 3 日	シンポジウム「地域・民族・性の交差を/から見つめる森崎和江」、立命館大学	—
48	柳原恵	〈辺境〉から日本のフェミニズムを再考する――東北-九州の思索と実践を中心に	2022 年 11 月 26 日	同時代学会関西研究会、ラボール京都	—
49	柳原恵	大学におけるジェンダー教育の困難とより良い実践を考える	2022 年 6 月 19 日	2022 年度日本女性学会オンライン大会	
50	庄婕淳	『寝覚物語』と『任氏伝』――その受容と展開をめぐって	2022.04	第一回日本語学術交流と発展サミット（中国北京日本文化センター主催）、オンライン	
51	庄婕淳	ジェンダーの視点から見る『源氏物語』中国語訳	2023.02	2023 年度日中翻訳文化教育学術シンポジウム、オンライン	
52	川端美季	BATHING, CLEANLINESS, AND HOME HYGIENE IN MODERN JAPAN	2023 年 3 月	Association for Asian Studies, Annual Conference、ボストン	
53	Saeko KIMURA	The Kikigaki Literary Shift in Shinsaigo Bungaku	2022 年 5 月 12 ～14 日	AJLS2022 at UCLA	
54	Saeko KIMURA	Tsushima Yūkko's Indigenous Poetics: In Kyrgyz with Golden Dream Song (Ōgon no yume no uta)	30 September –1 October 2022	International Symposium “Writers Who Have Seen Too Much: Earth, Kin Care” at University of California, Irvine	
55	Saeko KIMURA	Post-Disaster Literature in a Time of COVID	2023 年 3 月 16 日～19 日	AAS2023 at Boston	
56	Saeko KIMURA	パネル発表 Post-Disaster Fiction in an Age of COVID	2023 年 3 月 16 日～19 日	AAS2023 at Boston	Erika Kobayashi
57	OUYANG, S.	“Breaking Windows and Mirrors: the LGBTQ+/Disability	November 2022	International Conference on Disability Inclusion 2022, Brawijaya University, Indonesia	Robinson, R., & Kamenetsky, S.

		Community's Representation in Japanese Media" [full-paper presentation].			
58	阪本佳郎	ある父と子のハワイ―ジャン・シャルロ「二人のロノ」を翻訳する	2023 年 2 月	「翻訳文学紀行 IV への招待　南の島をめぐる旅」神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート	
59	吉田恭子	魔術としての翻訳――Translation as Magic	2022 年 7 月	表象文化論学会	パネル「翻訳のイデア―言語、想起、魔術」佐藤元状、高桑和巳、竹峰義和
60	吉田恭子	タイム・マシーンの作り方	2023 年 3 月	早稲田大学村上ライブラリー国際シンポジウム「アカデミアにおける文芸翻訳：研究と翻訳の接点」	リチャード・カリチマン氏基調講演へのレスポンス

４．主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	吉増剛造講演会　『詩とは何か』を語る―純粋言語を追いかけて―	衣笠キャンパス	2022 年 6 月	30 名	財団法人◇◇、××大学□□研究所
2	近代文学の終わりと J.M クッツェー　田尻芳樹講演会	衣笠キャンパス	2022 年 6 月		
3	ワークショップ 日本語から世界文学を考える	衣笠キャンパス	2022 年 7 月	20 名	
4	国際シンポジウム　吼えろアジア：東アジアのプロレタリア文学・芸術とその文化移転 1920-30 年代	衣笠キャンパス	2022 年 7 月	100 名	
5	左川ちか 2022――新たに開かれる詩／モダニズム／世界	衣笠キャンパス	2022 年 8 月		
6	2022 年度 国際言語文化研究所連続講座 人間と人間でないものの相互作用	衣笠キャンパス（オンライン）	2022 年 10 月	各回 90 名	
7	ラウンドテーブル『世界文学としての〈震災後文学〉』	津田塾大学／衣笠キャンパス	2022 年 12 月	20 名	
8	四方田犬彦講演会　『パゾリーニ』（作品社 2022）刊行記念～パゾリーニの 10 人の女友だち～	衣笠キャンパス	2023 年 1 月		
9	説話・伝承学会 2022 年度春季大会	大阪いばらきキャンパス	2022 年 4 月	30 名（リモート 50 名）	立命館大学国際言語文化研究所
10	第一回ヴァナキュラー言語文化理論研究会	衣笠キャンパス	2022 年 7 月	3 名	
11	ヴァナキュラー文化研究会「生き続け変容拡大する文化のエッセンス―――舞台・声・漫画」	衣笠キャンパス	2022 年 11 月	18 名	
12	ヴァナキュラー研究会年次大会	衣笠キャンパス	2023 年 3 月	約 16 名	
13	ヴァナキュラー文化研究会第 5 回仮面劇研究会	衣笠キャンパス	2023 年 3 月	約 10 名	
14	ワークショップ：ヴァニタス研究会とハーバード大学の研究から	ハーバード大学	2022 年 9 月	15 名	科研（基盤研究 B　近現代美術における死生観の研究～ヴァニタス表象を中心に）
15	院生コロキウム 「ポストメディア時代における東アジアの文化芸術研究―テーマとパースペクティブ―」組織・司会	衣笠キャンパス (+Zoom)	2023 年 1 月	40 名	立命館大学アート・リサーチセンター、立命館大学アジア・日本研究所
16	美学会全国大会　当番校企画シンポジウム「コレクティブの現在」	京都工芸繊維大学	2023 年 10 月 15 月	100 名	美学会
17	地域・民族・性の交差を／から見つめる森崎和江――報告・討議・映像作品上映によるアプローチ	立命館大学衣笠キャンパス	2023 年 3 月	約 60 名	立命館大学生存学研究所
18	マイノリティの経験を継承する――ライフヒストリー・記録／記憶・代表制	立命館大学大阪梅田キャンパス	2023 年 3 月	約 40 名	カルチュラル・スタディーズ学会
19	左川ちか:2022：新たに開かれる詩／モダニズム／世界	立命館大学衣笠キャンパス	2022 年 8 月	約 60 名	科研「英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究」（20H01244）
20	JUPE: Japanese UK Poetry Exchange	英国各地・東京・京都	2023 年 1 月	合計約 300 名	グレイトブリテン・ササカワ財団、大和日英基金
21	京都文学レジデンシー2022 オープニング・フォーラム『裂け目と文学』	香老舗 松栄堂・薫習館	2022 年 10 月	約 150 名	京都文学レジデンシー実行委員会／龍谷大学国際社会文化研究所八幡プロジェクト／京都芸術大学

22	アドリアナ・ジェイコブス講演とワークショップ	立命館大学衣笠キャンパス＆東京キャンパス	2023 年 2～3 月	合計約 50 名	科研「英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究」(20H01244)
23	2022 年度 国際言語文化研究所連続講座 人間と人間でないものの相互作用	オンライン開催	20222 年 10 月	合計約 200 名	
24	近代文学の終わりと Ｊ．M. クッツェー 田尻芳樹講演会	立命館大学衣笠キャンパス	2022 年 6 月	約 30 名	

５．その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	田 浦 秀幸	音読と脳の活性化	東京新聞「100 年時代」シニア面	2023.3.16
2	田 浦 秀幸	帰国生の保護者へのアドバイス	pring 誌 10 月号(シンガポール発グローバル教育を考える本格的教育マガジン)	2022.10
3	田 浦 秀幸	「講義の鉄人」応用言語学	読売中高生新聞	2022.5.6
4	滝 沢 直宏	自然な言語表現のための副詞の有効活用：英語を中心に	立命館土曜講座・第 3360 回：「コンピュータが暴く英語の実態：副詞と定型表現」	2023 年 6 月 18 日
5	滝 沢 直宏	記念講演 現代英語における-ly 副詞の語法文法	関西外国語大学・国際文化研究所主催・第 9 回 IRI 言語・文化研究フォーラム記念講演	2023 年 2 月 15 日
6	滝 沢 直宏	コーパスの有効活用に必要なこと：コーパスの中を見る必要性と正規表現の有用性	政治大学・外国語文学院日本語文学学系	2023 年 3 月 28 日
7	仲 間 裕子	ドイツ・ロマン主義の風景画と自然	国立西洋美術館	2022 年 8 月
8	山 本 真 紗 子	「夏雪軒コレクションの概要」	『紀要 アート・リサーチ』23-2 号、2022 年 12 月 19 日公開（冊子版・2023 年 3 月 31 日発行）《https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/app/newarc/j/report/books/art_research_vol23-2.html》	2022 年 6 月～10 月
9	金 友 子	マイクロアグレッションを考える ～日常のなかの無自覚な差別～	大阪府人権総合講座（後期・人権問題科目群）(大阪府大阪市（オンライン）)	2022 年 2 月
10	金 友 子	人種、民族、国籍、性別、性的指向・性自認、障害等に関わる弁護士が備えるべき視点としての「マイクロアグレッション」	大阪弁護士会研修会(大阪弁護士会館（大阪府大阪市）)	2022 年 6 月
11	金 友 子	『マイクロアグレッション』 ～ 日常生活に埋め込まれた無自覚の差別 ～	大阪府立信太高等学校 教職員研修(大阪府和泉市)	2022 年 7 月
12	金 友 子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	第 3 回 Creating Futures プログラムセミナー 「ダイバーシティ」を見つめなおす（(文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティイニシアティブ（先端型）2020-2025)）(オンライン)	2022 年 9 月
13	金 友 子	私にもある無意識の偏見や差別 「マイクロアグレッション」を考える	第 2 回 フェミニズムとジェンダー学習会(日本（オンライン）)	2022 年 11 月

14	金　友子	マイクロアグレッション―日常に潜む見えない差別―	「多文化共生パートナー育成講座 with DIVERSITY～知る、つながる、共に暮らす～」第１回、名古屋 NGO センター、東海市民社会ネットワーク、独立行政法人国際協力機構中部センター（JICA 中部）、JICA 中部なごや地球ひろば セミナールーム、愛知県名古屋市	2022 年 12 月
15	金　友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会 2023、オンライン	2023 年 2 月
16	松　本克美	「記念講演：欠陥住宅をめぐる判例法理の形成と今後の課題」	京都弁護士会館、欠陥住宅京都ネット	2022 年 4 月
17	梁　仁實	「帝国日本映画と朝鮮」	神戸映画資料館	2023 年 3 且 19 日
18	鳥　山純子	私らしさの民族誌紹介	イスラーム・ジェンダー学科研巣ごもり研究会、オンライン	2022. 4. 30
19	鳥　山純子	「「私らしさ」の民族誌―現代エジプトの格差、欲望、女性」	Book Launch Seminar, . CMEIS/ AIJ, 立命館大学、オンライン	2022. 5 20
20	鳥　山純子	「映画から読み解くイスラームとジェンダー」	イスラーム映画祭　TALK SESSION①	2022. 4. 30
21	鳥　山純子	「映画 Sofia　解説」	上智大学映画上映会、上智大学、オンライン	2022. 12. 13
22	鳥　山純子	「犠牲祭（エジプト）」42-43 頁. 「地域ごとの食文化（エジプト）」138-139 頁。「ツーリズム、リゾート、レジャー施設（エジプト）」444-445 頁。	『イスラーム文化事典』八木久美子編（丸善出版）の項目執筆	2023 年 1 月 31 日
23	鳥　山純子	「アラブ世界の女性たち４　イスラーム教の女性抑圧をめぐる問答から―モロッコ・ラバトで出会った、いくつかの嬉しい「驚き」」	『f Visions』 No.5 アジア女性資料センター、56-57 頁.	2022 年 7 月 20 日
24	鳥　山純子	「『マリアムと犬ども』―家父長制ホラーが照らすシステムからの脱却 Column #2」	『イスラーム映画祭８　Archive』11-12 頁.	2023 年 2 月 18 日
25	鳥　山純子	「『ソフィアの願い』―「未婚の母」問題で繋がる社会 Column #10」	『イスラーム映画祭 8 Archive』2、39-40 頁	023 年 2 月 18 日
26	柳　原恵	コラム「遊歩道」	岩手日報、計１回掲載	2022 年 9 月

27	柳　原恵	【SDGs を考える】東北農村女子青年が生んだフェミニズム―地方から考えるジェンダー平等とエンパワーメント	立命館オンラインセミナー	2022 年 7 月
28	柳　原恵	ジェンダー平等とは～誰もが生きやすい社会を目指して～	2022 年度いわて男女共同参画サポーター養成講座	2022 年 8 月
29	柳　原恵	ジェンダーとダイバーシティの視点を活かそう～誰もが過ごしやすいキャンパス環境のために～	立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室	2022 年 9 月
30	川　端美季	大正時代の崇仁地域の公衆浴場	崇仁~ひと・まち・れきし~vol.14 完成記念講演会、下京いきいき市民活動センター	2022 年 11 月
31	川　端美季	日本の銭湯の歴史――大阪を中心に	おおさか府民ネット大阪府・市共催講座「おおさか銭湯ザ・ワールド ～銭湯の歴史・魅力・楽しみ方～」、阿倍野市民センター	2023 年 2 月
32	川　端美季	「ヒトとモノからみる公衆衛生史」リレー連載（コーディネーター）	『公衆衛生』（医学書院）	2023 年 6 月～2024 年 12 月
33	岩　川あ　りさ	「物語とトラウマ 岩川ありささん「生き延びる」言葉探して」	「共同通信社」	2022 年 12 月
34	岩　川あ　りさ	「＜書く人＞「生きる」ための文学『物語とトラウマ クィア・フェミニズム批評の可能性』早稲田大准教授・岩川ありささん（42）」	東京新聞	2022 年 11 月 13 日
35	阪　本佳郎	翻訳：ジャン・シャルロ『二人のロノ』	翻訳文学紀行 IV ことばのたび社	2022 年 9 月
36	吉　田恭子	ゲストコメンテーター	より良い翻訳のために――柳美里『JR 上野駅公園口』と Morgan Giles _Tokyo Ueno Station_ の比較を通して（福岡唐人町学習塾「とらきつね」）	2023 年 3 月 13 日
37	吉　田恭子	書評「諏訪部浩一著『カート・ヴォネガット――トラウマの詩学』」	『英文学研究』第 99 号, 2022, pp. 81-83.	2022 年 12 月
38	吉　田恭子	書評「山本秀行・麻生享志・牧野理英編著『アジア系トランスボーダー文学――アジア系アメリカ文学研究の新地平』	『アメリカ学会会報』　No.209, 2022, p. 8.	2022 年 7 月

６．受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014 年 10 月

７．科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	坂下史子	アメリカ合衆国におけるリンチの歴史の記憶化に関する包括的研究	基盤研究(C)	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
2	三須祐介	中国伝統劇の動態的研究：メディア、流通、民間	基盤研究(C)	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
3	岡本広毅	J. R. R. トールキンの中世英語英文学研究と「ファンタジー」創作を巡って	若手研究	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表

4	西山淳子	時間と相の副詞の意味論・語用論に関する日英対照研究	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
5	河原典史	バンクーバー大都市圏の日本人ガーディナー：技術革新にともなう庭園・造園業の展開	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
6	佐藤量	満洲引揚者の社会移動と生活再建をめぐる歴史社会学的研究	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2026 年 3 月	代表
7	ウェルズ恵子	ラブソングの大衆歌謡化に関する研究: アメリカ世俗歌の歌詞系譜の中で	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
8	安保寛尚	キューバの黒人ヴァナキュラー文化の文学的加工と改変についての研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
9	海寶康臣	歯科医師国家試験英語問題の課題とその解決案の提案に向けて	基盤研究（C）	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
10	加藤昌弘	「海賊ラジオからポッドキャストへ：スコットランド独立運動とヴァナキュラーメディア」	基盤研究（C）	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
11	中村仁美	独立後のアイルランドにおける文芸誌の諸相とその躍動	基盤研究（C）	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
12	三須祐介	中国伝統劇の「記録」と「記憶」に関する研究	基盤研究（C）	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
13	田浦秀幸	日英バイリンガルの言語習得と喪失メカニズム探索 fNIRS 研究	基盤研究(B)	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
14	田浦秀幸	生期のバイリンガル体験が生後半年間の受動的言語処理に及ぼす影響	挑戦的研究（萌芽）	2022 年 6 月	2025 年 3 月	代表
15	田浦秀幸	バイリンガル幼児の言語と心と認知の発達についての縦断的検討研究課題	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	分担
16	田浦秀幸	日英バイリンガルのアイデンティティー研究	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担
17	田浦秀幸	海地区の新人英語教員に対する研修と成長－5 年間の縦断的研究	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2023 年 3 月	分担
18	有田節子	推論過程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究:九州方言を中心に	基盤研究(B)	2019 年 4 月	2024 年 3 月	代表
19	有田節子	時空間マッピングの認知的基盤に関する理論的・実験的研究	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
20	仲間裕子	風景と近代的メランコリーの美学	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
21	仲間裕子	近現代美術における死生観の研究～ヴァニタス表象を中心に	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担
22	竹中悠美	中断された生の残像：死者の写真展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2024 年 3 月	代表
23	山本真紗子	「近代の美術普及史ー百貨店美術部と美術商を中心に―」	特別研究員奨励費	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
24	住田翔子	沖縄における伝統的地理観の受容・変遷の地理学的研究	基盤研究（C）	2021 年 4 月	2024 年 3 月	分担
25	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018 年 4 月	2024 年 3 月	代表
26	松本克美	性的被害に対する損害賠償請求権の消滅時効論―解釈論・立法論の現代化	基盤研究（C）	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
27	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立―公衆浴場の普及に注目して	若手	2018 年 4 月	2024 年 3 月	代表
28	川端美季	近代日本における清潔規範の創出と展開	基盤研究（C）	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
29	川端美季	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究（A）	2021 年 4 月	2026 年、3 月	分担
30	木村朗子	震災後文学の研究と国際研究ネットワークの構築	基盤研究（C）	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
31	OUYANG, Shanshan	交差性を基盤した運動とその連帯――日台における「障害のある性的少数者」運動を事例に	学振特別研究員奨励費	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
32	岡田 桂	スポーツにおける LGBT“主流化”の傾向とその問題点に関する研究	基盤研究（C）	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
33	岡田 桂	「エンパワーメント」言説／表象からみる女性スポーツ政策の政治性に関する研究	基盤研究（C）	2019 年 4 月	2023 年 3 月	分担
34	二宮周平	親の別居・離婚における子の権利保障シス	基盤研究（B）	2019 年 4 月	2023 年 4 月	代表

		テムの構築				
35	泉谷 瞬	プロレタリア文化運動研究：地方・メディア・パフォーマンス	基盤研究（B）	2018 年 4 月	2023 年 3 月	分担
36	RAJKAI Zsombor Tibor	家族変動と個人化に関する社会学的な言説の国際比較研究：ユーラシア地域を事例に	基盤研究（C）	2018 年 4 月	2023 年 3 月	代表
37	鳥山純子	イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究	基盤研究（A）	2020 年 4 月	2023 年 3 月	分担
38	鳥山純子	ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編	国際共同研究強化（B）	2019 年 10 月	2023 年 3 月	分担
39	鳥山純子	2011 年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究	若手研究	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
40	柳原 恵	チリ先住民マプーチェの女性運動の歴史と現在―ジェンダーとエスニシティの視点から	若手研究	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
41	中川成美	世界文学と日本文学―情動理論の共有を基礎として	基盤研究（C）	2020 年 4 月	2023 年 3 月	代表
42	KIM-Wachutka, Jacki	Multi-ethnic Aging and Cultural Needs Within Japan's Long-Term Care Insurance System	基盤研究（C）	April 2019	March 2023	代表
43	岡野八代	ケアの倫理の再定位をめざす研究：ネオ・リベラリズムに対抗する公的規範として	基盤研究（C）	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
44	吉田恭子	冷戦期創作科教授哲学と 20 世紀アメリカ文学の研究：自由陣営文学における自己検閲	基盤研究（C）	2018 年 4 月	2023 年 3 月	代表
45	吉田恭子	冷戦期東アジアにおける創作教育、文学、大衆文化	基盤研究（C）	2019 年 4 月	2023 年 3 月	分担
46	吉田恭子	英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究	基盤研究（B）	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担

８．競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	有田節子	高度な文脈依存性に基づく日本語とスペイン語の対照意味語用論的研究と国際的研究ネットワークの構築	2022 年度 国際共同研究促進プログラム（スタートアップ型）（立命館大学）	2022 年 7 月	2023 年 3 月	代表
2	藤本流位	21 世紀現代アートの社会参与をめぐるグローバルな実践と批評の問題	2022 年度立命館先進研究アカデミー(RARA)次世代研究者育成プログラム 海外イマージョン・プログラム	2022 年	2022 年	代表
3	藤本流位	2000 年代以降の現代美術における暴力の表象	立命館大学大学院博士課程後期課程研究奨励奨学金 A	2022 年	2022 年	代表
4	梁　仁實	冷戦期韓国の映像メディアと在日コリアン女性」	2023 年度韓国学中央研究院海外韓国学支援事業	2023 年 2 月	2024 年 1 月	代表
5	梁　仁實	日韓の映像交流史と在日コリアン―「協力」から協同製作へ	JFE 21 世紀財団アジア歴史研究助成金	2023 年 1 月	2023 年 12 月	代表
6	庄婕淳	外国語専攻教師の課程思政教学（CIE）について CMB 研究――多因子分析法に基づく実証研究、役割	中国広東省社会科学研究プロジェクト	2022 年 11 月	2024 年 12 月	分担
7	川端美季	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析とアーカイブズ構築、	RISTEX 社会技術研究開発センター「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」	2022 年 10 月	2026 年 3 月	分担
8	川端美季	SoS 時代のシステムの安全性・信頼性とイノベーションの両立に向けたデジタルインフラ整備及びガバナンスのあり方に係わる研究開発	NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)「産業 DX のためのデジタルインフラ整備事業／複雑なシステム連携時に安全性及び信頼性を確保する仕組みに関する研究開発」、	2023 年 1 月	2025 年 3 月	

９．知的財産権

No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太朗	特許（国内）	本人単独	筆頭発明者	＊＊＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	日本